

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書		令和 4年 6月 24日
静岡県知事 川勝 平太 殿		
提出者		
住所 静岡県焼津市栄町5丁目9番3号		
氏名 株式会社 橋本組		
代表取締役 橋本真典		
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)		
電話番号 054-627-3276		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。		

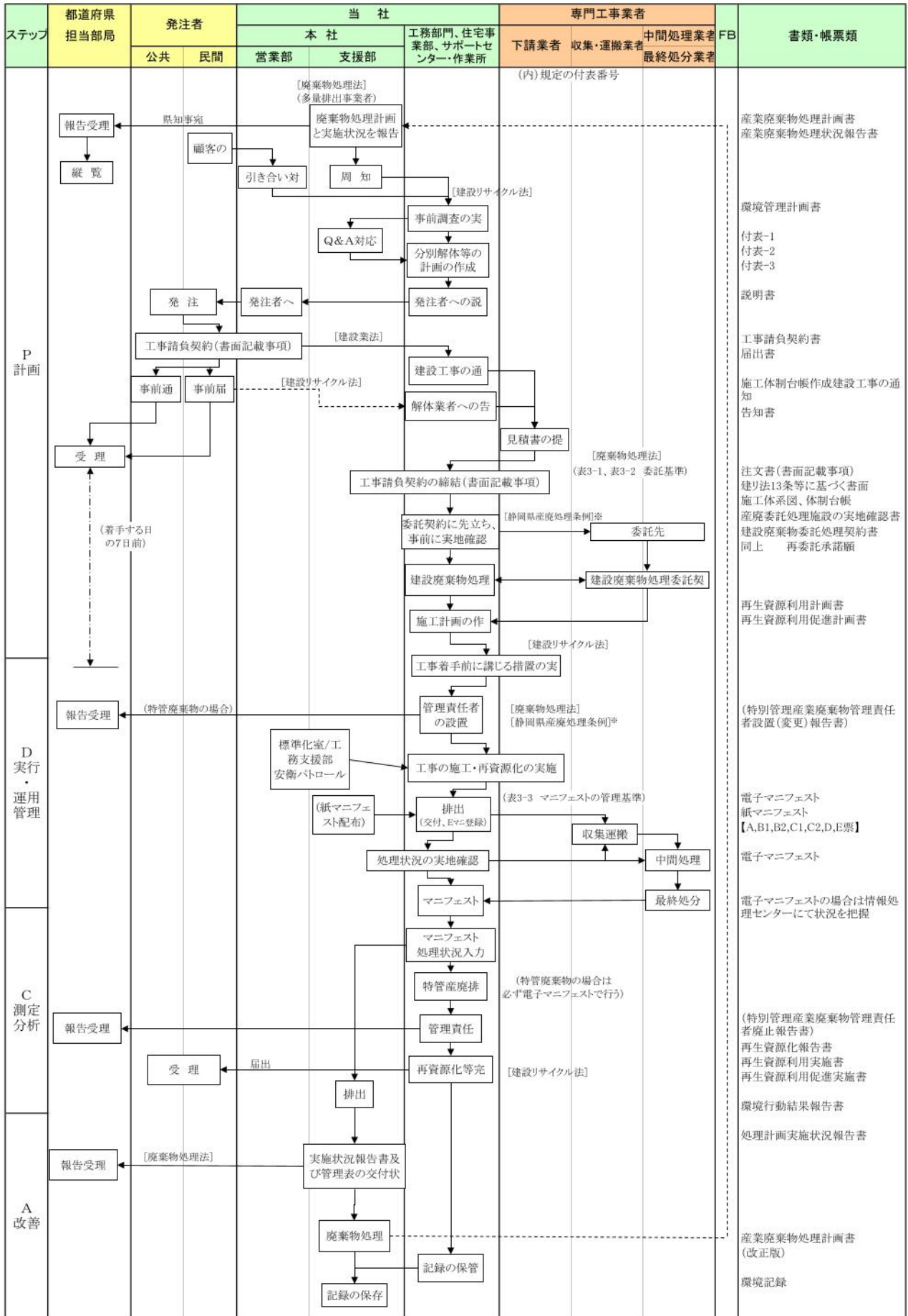
事業場の名称	株式会社 橋本組
事業場の所在地	静岡県焼津市栄町5丁目9番3号
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	資本金 5千万円 売上高 83億円
③ 従業員数	150人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙-1 【産業廃棄物の処理フロー図】 参照

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物処理フロー図



※静岡県産廃処理条例:静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙－2【建設副産物管理 組織体系図】 参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

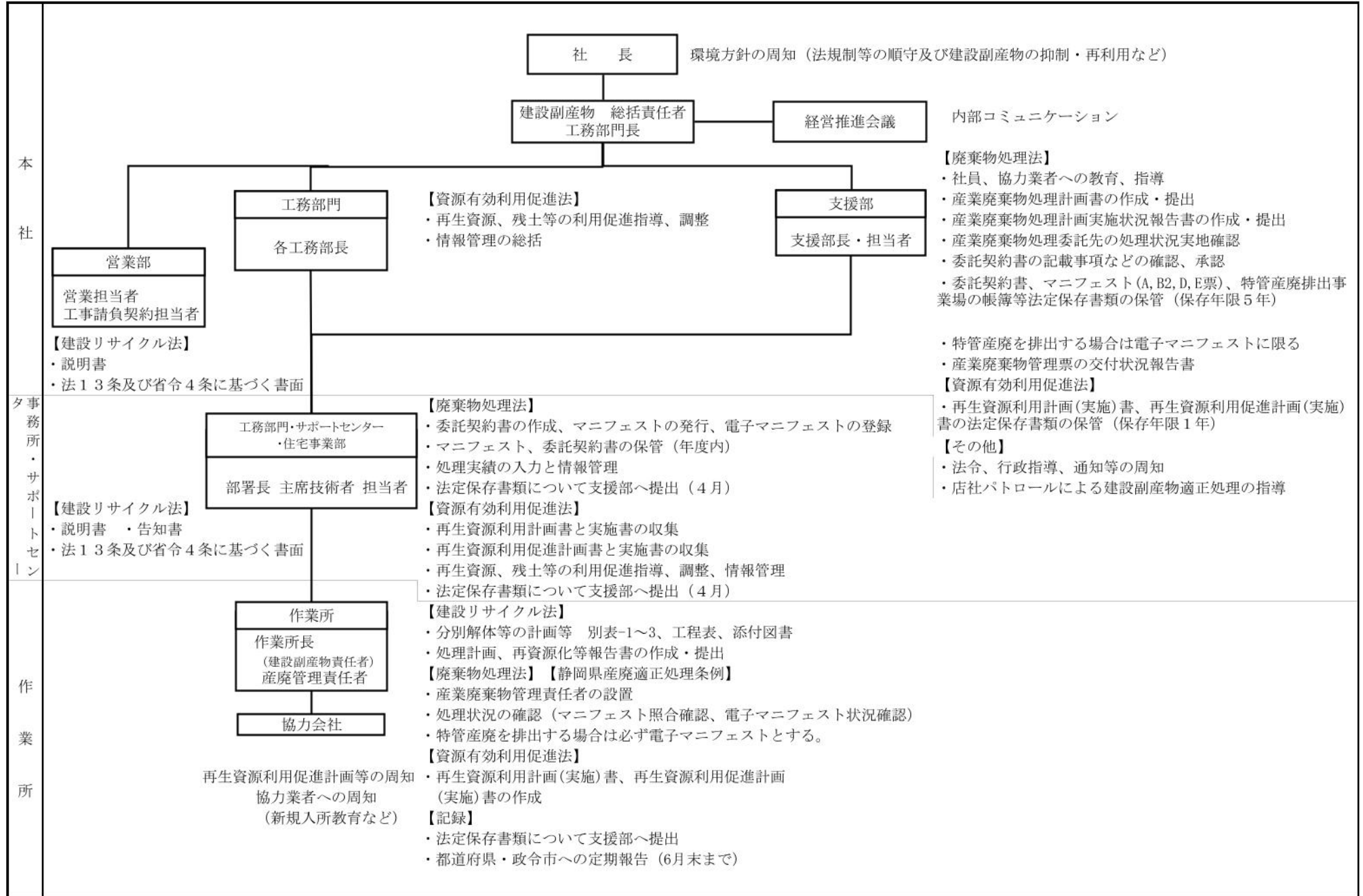
①現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙－3のとおり	
	排 出 量	12,770.185 t	t
	（これまでに実施した取組） ・材料搬入時の梱包を簡素化する ・作業所での分別保管をより徹底する ・再利用の促進（廃金属類はスクラップとしての排出を徹底する。）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙－3のとおり	
	排 出 量	10,870 t	t
	（今後実施する予定の取組） ・工事に使用する型枠は、鋼製型枠など繰り返し再利用可能なものを考慮に入れて選定する。 ・資材は可能な限りプレカットされたものを搬入し、現場からの廃棄物の発生を抑える。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 作業所で発生する産業廃棄物についてはがれき類、廃プラスチック、金属くず、木くず等に分類。 取組みとしては分別保管の徹底を行うように指導しているが、狭い現場も多くスペースの確保が難しいのが難点。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 保管場所を広く確保出来る現場では、仕分けの種類を多くしてより細かな分別を行う。 今後も、分別保管の徹底を行うように指導し、混廃の削減に取り組む。

別紙-2

建設副産物管理 組織体制図



別紙－3 産業廃棄物の排出量

廃棄物の種類	コンクリート がら	アスコンがら	その他が れき類	ガラス・ 陶磁器く ず	廃プラス チック類	金属くず	混合(安定 型のみ)	石綿含有				建設汚泥	紙くず	木くず	繊維くず	廃石膏 ボード	混合(管理 型含む)	廃油
								がれき	ガラス・ 陶磁器く ず	廃プラ	混合廃棄 物							
前年度(令和3年 度)の排出量	7,265.322t	4,419.128t	86.464t	12.830t	58.206t	0.000t	19.086t	13.468t	0.700t	0.525t	0.000t	171.684t	0.000t	428.400t	0.968t	31.170t	258.488t	0.630t
(令和4年度)目標	7,000t	3,000t	50t	10t	50t	0t	15t	12t	0t	0t	0t	100t	0t	400t	0t	30t	200t	0t

廃棄物の種類	廃蛍光管	HIDランプ	廃電池類	特別管理		合計
				廃石綿	有害汚泥	
前年度(令和3年 度)の排出量	0.065t	0.020t	0.027t	3.000t	0.004t	12,770.185t
(令和4年度)目標	0.2t	0.1t	0.1t	2.6t	0t	10,870t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリートガラ)	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	3,412.510 t	t
	(これまでに実施した取組) 自社生コン工場にある中間処理施設にて破砕処理し、再生材として自社建設現場等で再利用している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリートガラ)	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	2,000 t	t
	(今後実施する予定の取組) 工事現場との運搬距離が比較的近い現場では、自社生コン工場で破砕処理を行い、再生材として自社の建設現場等で有効利用する。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画			
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（令和3年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	
	(これまでに実施した取組) これまで、自社で埋立処分又は海洋投入処分を実施したことはない。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	
	(今後実施する予定の取組) 引き続き埋立処分又は海洋投入処分を実施する予定はない。			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（令和3年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙-4の通り		
	全処理委託量	9,357.675 t	t	
		優良認定処理業者への処理委託量	759.814 t	t
		再生利用業者への処理委託量	9,251.818 t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 委託先の選定時には、優良認定業者の選択を考慮して決定する。			

別紙-4 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

廃棄物の種類	コンクリート がら	アスコンがら	その他が れき類	ガラス・陶 磁器くず	廃プラス チック類	金属くず	混合(安定 型のみ)	石綿含有				建設汚泥	紙くず	木くず	繊維くず	廃石膏 ボード	混合(管理 型含む)	廃油
								がれき	ガラス・陶 磁器くず	廃プラ	混合廃 棄物							
前年度(今年3年度) の処理委託量	3,852.812t	4,419.128t	86.464t	12.830t	58.206t	0.000t	19.086t	13.468t	0.700t	0.525t	0.000t	171.684t	0.000t	428.400t	0.968t	31.170t	258.488t	0.630t
①優良認定処理業 者への処理委託量	25.800t	0.000t	2.516t	6.200t	45.138t	0t	18.540t	0.000t	0.000t	0.000t	0t	162.965t	0t	243.575t	0.968t	28.290t	223.360t	0.000t
②再生利用者へ の処理委託量	3,784.212t	4,419.128t	66.904t	12.830t	58.206t	0t	19.086t	0.000t	0.000t	0.000t	0t	171.684t	0t	428.400t	0.968t	31.170t	258.488t	0.630t
③認定熱回収業者 への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
④認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託 量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t

廃棄物の種類	廃蛍光管	HIDランプ	廃電池類	特別管理		合計
				廃石綿	有害汚泥	
前年度(今年3年度) の処理委託量	0.065t	0.020t	0.027t	3.000t	0.004t	9,357.675t
①優良認定処理業 者への処理委託量	0.031t	0.000t	0.027t	2.400t	0.004t	759.814t
②再生利用者へ の処理委託量	0.065t	0.020t	0.027t	0.000t	0.000t	9,251.818t
③認定熱回収業者 への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0.000t
④認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託 量	0t	0t	0t	0t	0t	0.000t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙-5のとおり	
	全処理委託量	8,870 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	430 t	t
	再生利用業者への処理委託量	8,858 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>産業廃棄物の排出量は、建設業の特性である受注量の変動及び解体工事の有無並びにその工事規模等に大きく左右される。 自社請負工事で発生したコンクリートがらについては、運搬距離が近いなどの場合には原則として自社で中間処理し再生材として再利用する。 また建設現場での分別収集による混合廃棄物の削減、梱包材の簡素化及びリサイクル化を推進する。</p>		
※事務処理欄			

別紙-5 令和4年度 産業廃棄物の処理委託量計画

廃棄物の種類	コンクリート がら	アスコンがら	その他がれ き類	ガラス・ 陶磁器く ず	廃プラス チック類	金属くず	混合(安定 型のみ)	石綿含有				建設汚泥	紙くず	木くず	繊維くず	廃石膏 ボード	混合(管 理型含 む)	廃油		
								がれき	ガラス・ 陶磁器く ず	廃プラ	混合廃棄 物									
本年度の 目標	①全処理委託量	5,000t	3,000t	50t	10t	50t	0t	15t	12t	0t	0t	0t	100t	0t	400t	0t	30t	200t	0.0t	
	②優良認定処理業者 への処理委託量	50t	0t	10t	5t	40t	0t	10t	2t	0t	0t	0t	80t	0t	100t	0t	30t	100t	0t	
	③再生利用業者への 処理委託量	5,000t	3,000t	50t	10t	50t	0t	15t	0t	0t	0t	0t	100t	0t	400t	0t	30t	200t	0.0t	
	④認定熱回収業者へ の処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	⑤認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t

廃棄物の種類	廃蛍光管	HIDランプ	廃電池類	特別管理		合計	
				廃石綿	有害汚泥		
本年度の 目標	①全処理委託量	0.2t	0.100t	0.1t	2.6t	0t	8,870t
	②優良認定処理業者 への処理委託量	0.3t	0.000t	0.2t	2.5t	0t	430t
	③再生利用業者への 処理委託量	0.2t	0.100t	0.1t	2.6t	0.0t	8,858t
	④認定熱回収業者へ の処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	⑤認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t

注)・受注工事の工事内容、数量等により廃棄物の種類、発生量が大きく左右される建設業の特異性をふまえ、廃棄物排出目標は過去の実績を勘案して目標数量とした。

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。